

事業名	子ども会育成者研修講座開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報								
担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	421	名称	目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業期間	開始年度	S51	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	教育・指導事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					
			社会教育法第5条					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	子どもたちの健全育成と子ども会活動の活性化を図るため、子ども会の育成者・指導者を対象に、育成者・指導者としての基本的な知識や技能を習得する研修会を開催する。
------	--

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	子ども会の育成者・指導者としての知識や技能を学び、子どもたちの健全育成と子ども会活動の活性化を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		研修講座開催回数	回	1	1	1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	開催方法や事業内容の見直しを行うため、開催を見合わせた。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		研修講座参加者数	人	0	0	0
		事業費計	千円	0	0	0
		一般財源	千円			
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	開催方法や事業内容の見直しを行うため、開催を見合わせた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		研修講座開催回数	%	0	0	0	値が大きければ良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		※10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

開催方法や事業内容の見直しを行うため、開催を見合わせた。集合研修のほか、オンライン研修での開催を検討する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

<input checked="" type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ①開催方法や事業内容の見直しを行う。 ②事業実施に向け、組織の体制強化を行う。
---	--

事業名	青少年相談事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し			
	課	少年指導センター				款	10	新規or継続	継続事業		
政策体系	係			青少年相談事業	科目	項	4	市単独or国県補助	市単独事業		
	体系コード	421	名称			根拠法令、条例等	目	6	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			少年指導センター条例施行規則	事業期間	開始年度	S49	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり				終了年度		事業分類	相談事業	
施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進									

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	青少年やその保護者を対象に、電話や面接による相談業務を実施する。
------	----------------------------------

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	青少年本人や家族などから相談を受け、その解決策を模索し、悩みごとの解決を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7	
		相談の受理件数	回	5	6	7	8	9	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	保護者による相談を5件受理し、助言指導を行った。	活動指標	単位	R3	R4	R5	
		相談の受理件数	回	5	2	5	
		事業費計	千円	0	17	16	
		一般財源	千円	0	17	16	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	相談に対して、助言指導を行ない、必要に応じて関係機関を案内する等の対応を行った。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較	
		相談の受理件数	回	5	2	5	値が大きければ良い	効果が上がった	

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断					
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
	効果は変わらない指標数	0指標		○			
	効果が下がった指標数	0指標					
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き、チラシや、広報さでの相談窓口の周知を行い、必要に応じて、青少年やその保護者への相談を実施する。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

--

事業名	学童野球・ソフトボール振興会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し			
	課	少年指導センター			少年補導員会運営支援事業	款	10	新規or継続	継続事業	
政策体系	係		根拠法令、条例等	項目	4	市単独or国県補助	市単独事業			
	体系コード	421			名称	6	義務or任意	任意的事業		
	基本目標	4			豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業	開始年度	S60	実施方法	直営
	政策	2			地域とともに学び育てるまちづくり	期間	終了年度		事業分類	支援事業
施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進	佐野市社会教育関係団体補助金交付要領							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市学童野球・ソフトボール振興会を通し青少年の健全育成を促進するため、補助金を交付し会の円滑な運営が図れるよう支援を行う。
------	--

(2) 目的

(3) 目標値

目的	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
(本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市学童野球・ソフトボール振興会の円滑な運営と財政の健全化を図る。	団体の補助金執行率	%	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付 【佐野市学童野球・ソフトボール振興会の活動】 ・学童野球大会開催の際の試合球の購入 ・大会の運営支援 等	活動指標	単位	R3	R4	R5
		補助団体数	団体	1	1	1
		事業費計	千円	80	80	80
		一般財源	千円	80	80	80
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
(定量及び定性)	団体による、学童野球大会の運営支援等の実施により、本市における青少年の健全育成に寄与することができた。	団体の補助金執行率	%	100	100	値が大きければ良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない	費用が下がった		
			費用の増減無し		
			費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

少子化により、競技者が減少している。特に、ソフトボールについてはそれが著しい。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

<input checked="" type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 他の競技とのバランスにも配慮した、事業の在り方の検討を行う必要がある。
--	---

事業名	安足地区青少年育成連絡協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予	会計	一般	事業計画	単年度繰返し			
	課	少年指導センター			款	10	新規or継続	継続事業			
政策体系	係		安足地区青少年育成連絡協議会参画事業	算	項	4	市単独or国県補助	市単独事業			
	体系コード	421			名称	根拠法令、条例等	目	6	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4			豊かな心を育み、学び合うまちづくり	社会教育法（第11条）	事業	開始年度	S49	実施方法	直営
	政策	2			地域とともに学び育てるまちづくり	佐野市社会教育関係団体補助金交付要領	期間	終了年度		事業分類	参画事業
施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進									

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	安足地区青少年育成連絡協議会へ負担金を支出する。
------	--------------------------

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	団体の実施する研修会への参加を通して、青少年の実態や健全育成活動についての情報収集を行う。 また、団体と協力し、佐野市内の携帯電話販売店や図書販売店に対して、立入調査を実施する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		研修会等の参加回数	回	5	5	5	5	5

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・負担金の支出 ・総会、理事会、研修会への出席（3回） ・立入調査への協力（2回） 【安足地区青少年育成連絡協議会の活動】 ・総会、理事会の開催 ・研修会、立入調査の実施 ・安足地区少年の主張発表大会の主催（会場：足利市）	活動指標	単位	R3	R4	R5
		研修会等の参加回数	回	5	5	5
		事業費計	千円	32	32	32
		一般財源	千円	32	32	32
特定財源（国・県・他）	千円					
(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	団体の事業への参加を通して、青少年の実態や健全育成活動についての情報収集を行うことができた。 また、佐野市内の携帯電話販売店や図書販売店に対して、立入調査を実施することができた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		研修会等の参加回数	回	5	5	5	値が大きければ良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない	費用は下がった	費用が増減無し	費用が増加した

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き、安足地区青少年育成連絡協議会に参画する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

事業名	佐野市の青少年とともに育つ市民の会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予 算 科 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課			款	10	新規or継続	継続事業	
政策体系	係	社会教育係	根拠法令、条例等	事業 期間	項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
	体系コード	421			目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4			豊かな心を育み、学び合うまちづくり	開始年度	H23	実施方法	直営
	政策	2			地域とともに学び育てるまちづくり	終了年度	-	事業分類	支援事業
施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進	社会教育法(第11条)、佐野市の青少年とともに育つ市民の会補助金交付要領						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市の青少年とともに育つ市民の会へ補助金を交付することにより、団体の事業活動を充実・安定させ、団体の活動により本市の社会教育の推進を図る。佐野市の青少年とともに育つ市民の会は、青少年の育成に市民すべてが関心をもち、市の施策や青少年関係団体・機関と連携を図りながら市民総ぐるみの運動を展開し、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的として、日々活動している。
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市の青少年とともに育つ市民の会の円滑な運営と財政の健全化を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		団体の補助金執行率	%	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付	活動指標	単位	R3	R4	R5
	【佐野市の青少年とともに育つ市民の会の活動】 ・理事会、総会、研修会の開催 ・市民の会だよりの発行 ・心豊かな青少年を育む市民のつどい開催 ・小中義務教育学校への親子学び合い事業（スマホ・携帯電話講習会）の支援 等	補助団体数	団体	1	1	1
		事業費計	千円	25	25	25
		一般財源	千円	25	25	25
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	支援により、団体の目的である、地域全体での次代を担う青少年の健全育成を図ることができた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		団体の補助金執行率	%	100	100	100	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない			
費用	費用が下がった				
	費用の増減無し				
	費用が増加した				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

事業名	二十歳のつどい開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報								
担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	421	名称	目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業期間	開始年度	S23	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり	終了年度		事業分類	イベント等開催事業	
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	二十歳のつどい対象者に対し、式典の開催、記念品配布、およびアトラクション終了後の記念撮影を実施する。
------	--

(2) 目的

(3) 目標値

目的	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
二十歳のつどいの式典を実施し、祝い励ます事により、自己の責任を自覚し、社会的義務を意識付ける。	二十歳のつどい参加率	%	80	80	80	80	80

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	令和6年1月7日開催。 佐野会場：文化会館 田沼会場：田沼中央公民館 葛生会場：葛生あくどプラザ の3会場で開催。 記念品の配布、記念撮影等を行った。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		二十歳のつどい参加率	%	80	80	81
		事業費計	千円	726	749	782
		一般財源	千円	726	749	782
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
二十歳のつどいを開催し、対象者のうち80.61%の方に出席いただいた。	二十歳のつどい参加率	%	80	80	81	値が大きほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	費用が下がった	費用の増減無し	費用が増加した
	効果が下がった指標数	0指標	○		
	指標全体	効果が上がった			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

新型コロナウイルスなどの感染症拡大の影響もなく、従来通りの開催であった。 令和6年度から3年間佐野会場として文化会館が使用できないため、代替の会場でも、参加者の思い出に残る式典になるよう、開催方法を検討する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明
<input checked="" type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）
代替会場として、佐野市民体育館アリーナを選定し、会場設営については委託する方向で開催方法を検討し、引き続き3会場で開催する。

事業名	二十歳のつどい企画運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課			款	10	新規or継続	継続事業	
	係	社会教育係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	421	名称	根拠法令、条例等	目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	社会教育法(第11条)、佐野市社会教育団体交付金交付要領	事業期間	開始年度	H9	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり		終了年度		事業分類	支援事業	
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野地区・田沼地区・葛生地区の3会場で開催する二十歳のつどいの企画運営について、二十歳のつどい参加対象者を対象に委員を募集し、自らの二十歳のつどいを企画運営することを支援する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	式典を二十歳の方が自ら企画運営することにより、二十歳のつどいの意義を理解し、二十歳にふさわしい自立心を醸成する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		二十歳のつどい出席率	%	80	80	80	80	80
		自分が成長し自立したと感じる新成人の割合	%	93.0	93.5	94.0	94.5	95.0

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	二十歳のつどい企画運営委員数 佐野地区：12人 田沼地区：8人 葛生地区：8人 企画運営委員会会議開催数 佐野地区：5回 田沼地区：5回 葛生地区：5回	活動指標	単位	R3	R4	R5
		企画運営委員数	人	29	27	28
		会議開催数	回	18	14	15
		事業費計	千円	147	145	145
		一般財源	千円	147	145	145
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	28名の企画運営委員の方にそれぞれの会場でのアトラクションの企画および式典、アトラクションの進行を担当していただいた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		二十歳のつどい出席率	%	80	80	81	値が大きければ良い	効果が上がった
		自分が成長し自立したと感じる新成人の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きければ良い	効果は変わらない

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標	○		
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果が上がった			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

大学進学により、遠方に在住している方でも会議に参加できるよう、会議は対面、オンラインのハイブリッドで行った。 近年の物価上昇、佐野会場が2部に分かれての開催になることにより、それぞれの会場でアトラクションに使用できる金額が少ないことが課題である。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	物価上昇に対応し、交付金額の増を検討する。（令和7年～）
------	------------------------------

事業名	青少年活動育成促進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	2-③	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課	青少年活動育成促進事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	421	名称	目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業期間	開始年度	平成14	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり	終了年度			事業分類	教育・指導事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	青少年たちが、話し合いや体験活動を通して交流し、成長していけるよう、青少年同士の連携を支援し、青少年活動の推進、活性化を図る。
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	ボランティア活動への理解と関心を深め、地域活動への意欲を高める。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		ボランティアへの理解を深めた参加者の割合	%	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	青少年ボランティア研修会（全6回） 研修外ボランティア活動（全8回） 期日：令和5年4月～令和6年3月 会場：こどもの国 ほか 研修会及び研修外ボランティア活動の延べ参加者数：353人	活動指標	単位	R3	R4	R5
		本研修開催数	回	3	6	6
		事業費計	千円	25	52	52
		一般財源	千円	25	52	52
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	市主催のイベント等においてボランティア活動を体験することにより、青少年が、ボランティア活動への理解を深めた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		ボランティアへの理解を深めた参加者の割合	%	100	100	100	値が大きほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標		○	
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年の本研修会では、当日、酷暑下の屋外での活動があった。そのため、熱中症対策等参加者の安全を確保するための対策が必要である。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

- ・Logoフォーム等での研修会参加受付などを行い、事務負担の軽減を図る。
- ・研修会に参加する青少年の安全面を考慮し、本研修会で飲料を配布する（令和7年～）。

事業名	佐野・芦屋青少年交流事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課			款	10	新規or継続	継続事業	
政策体系	係	社会教育係	根拠法令、条例等	事業期間	項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
	体系コード	421			目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4			豊かな心を育み、学び合うまちづくり	開始年度	H6	実施方法	直営
	政策	2			地域とともに学び育てるまちづくり	終了年度		事業分類	教育・指導事業
施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進	社会教育法 (第3条、第5条)						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	親善都市である福岡県芦屋町と佐野市（室町時代から「西の芦屋・東の天明」といわれ並び称される茶の湯釜の産地）の小・中学校生及び義務教育学校生が、相互訪問による宿泊研修等を通して交流を図り、お互いの文化を理解し、両市町の交流を促進する。
------	--

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	親善都市である福岡県芦屋町と佐野市の小・中学校生及び義務教育学校生が、相互訪問による宿泊研修等を通して交流を図り、お互いの郷土の文化を理解し、豊かな心を育み、自己管理能力の向上を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		活動を通し、自己管理能力が向上した参加者	%	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	会場：芦屋町 参加者：12名 事前研修：3回 研修会当日に、九州への台風直撃のため、中止。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		参加者数	人	0	0	12
		事業費計	千円	0	0	98
		一般財源	千円	0	0	98
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	研修の中止により、効果は得られなかった。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		活動を通し、自己管理能力が向上した参加者	%	0	0	0	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない	費用が下がった	費用の増減無し	費用が増加した

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

台風の影響により、事業中止となった。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

令和6年度の事業再開に向けて、佐野市におけるプログラム等の事業内容の検討を行う。

事業名	子ども会ジュニアリーダー研修会開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予 算 科 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課	子ども会ジュニアリーダー研修会開催事業		款	10	新規or継続	継続事業
政策体系	係	社会教育係	根拠法令、条例等	項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
	体系コード	421	名称	目	1	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業 期間	開始年度	S50	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり	終了年度	-	事業分類	教育・指導事業	
施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進	社会教育法第5条					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	子ども会活動での中心的役割を担う小学校及び義務教育学校5,6年生を対象に、団体行動や自然体験を通じてジュニアリーダーとしての知識や技術を習得し、子ども会活動の進展及び活性化を図るための研修会を開催する。
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	ジュニアリーダーとしての知識・技能を今後の子ども会の活動に生かしてもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		研修会開催回数	回	1	1	1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	開催方法や事業内容の見直しを行うため、開催を見合わせた。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		研修会参加者数	人	0	0	0
		事業費計	千円	0	0	0
		一般財源	千円			
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	開催方法や事業内容の見直しを行うため、開催を見合わせた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		研修会開催回数	%	0	0	0	値が大きければ良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		※10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

開催方法や事業内容の見直しを行うため、開催を見合わせた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ①開催方法や事業内容の見直しを行う。 ②事業実施に向け、組織の体制強化を行う。
---	--